

序論)

みなさんは、「誰かに呼び出された」と聞いていいイメージを持つでしょうか。悪いイメージを持つでしょうか。一概に「呼び出し」といっても誰に呼び出されたかによってイメージはかわりますよね。「上司に呼び出された」場合は急な仕事を振られるのかもしれませんが、「学校の先生からの呼び出し」と聞くとなにか怒られるのかもしれないと予想する人もいるでしょう。それとは別に仲の良い友だちや恋人からの呼び出しなら遊びやデートの誘いかもしれないと思ってワクワクします。

では、神様から呼び出されたとしたら、みなさんはどう思うでしょうか。

今日は、神様から呼び出されたイスラエルに対する預言を通して、神様の呼び出しについて教えられていきたいと思います。

1) 呼び出し主は変わらない

まずは、12節と13節を読んでみましょう。

48:12 わたしに聞け、ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしが初めであり、また、終わりである。

48:13 まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。

神様は、ご自分がイスラエルを呼び出したお方であることと、その呼び出し主である神様は永遠に変わらないお方であること、そして、この世界も神様の呼びかけによって造られたと言っておられます。しかも、12節で最初イスラエルのことを「ヤコブよ」と呼んでいますよね。神様がイスラエルのことをあえて「ヤコブよ」と呼ぶような場合は、イスラエルが神様を裏切り逆らう性質を持っていることを強調する時です。

確かにイスラエルは、その歴史において神様に逆らい続けてきました。出エジプトしてから約束の地に入る前、約束の地でイスラエル王国ができた後、そして、北イスラエル、南ユダに分かれてそれぞれが滅びるまでも、彼らはしょっちゅう【主】に逆らい続けてきたのです。そして、ユダがバビロンに捕らわれ、バビロンで生活するようになった後も、バビロンの偶像文化に影響を受けて、【主】に逆らった人

たちがどうもいたようです。ですから、イスラエルはその立場や状況に応じて【主】に従ったり、背いたりすることを繰り返してきました。

でも、そんなイスラエルをご自分の民として呼び出した神様はどのようなお方かという、初めから終わりまで永遠に変わらないお方なのです。12節の「わたしがそれだ」と言われている箇所は「わたしは同じだ」とか、「わたしは変わらない」と訳すことができます。

私達、人間は神様に対して度々、手のひらを返して裏切るようなことをしてしまいますが、私達を救い出し、ご自分の民として呼び出してくださる神様は違うのです。この世界の最初から、この世界の終わりまで、永遠に変わらないお方です。

だから、神様はイスラエルがどんなに神様に逆らい続けていたとしても、まるでドリルのように手のひらをクルクル返し続けていたとしても、神様はイスラエルを、ご自分が呼び出した民として、導き続け、救い続けてこられたのです。

パウロがローマ人への手紙で「11:29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。」と言っている通りです。この召命というのが神様からの呼び出しのことです。神様が私達を神の民、神の子としようとして呼び出されたのならば、その導きは、どんなに私達が【主】に逆らい続けていたとしても永遠に変わることがないのです。

そして、この神様の呼び出しには力があります。それはどのような力かという、世界を造る力です。13節をもう一度読みましょう。

48:13 まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。

基本的に神様の呼び出しには、世界中のものが従わなければいけないという権威があります。神様はその権威によってこの世界をお造りになったのです。

人間社会でも同じですよ。会社の社長が「君を営業部に配属する」といったらその人は営業の仕事をしなればいけないし、「君は商品開発をしなさい」と任命されたのならば、その人は商品を開発します。

それと同じように私達を呼び出し、この世界をお言葉一つで創造された神様は、すべてのものを従わせる権威を持っておられるお方なのです。

2) 呼び出し主は救い主を呼ぶ

問題は、その権威ある御方に私達が従えているかということです。

イスラエルは先程いったように【主】に従い続けることができていませんでした。だから、彼らは滅び、バビロン捕囚に連れて行かれてしまったのです。

私達はどうでしょうか。私達も、【主】に呼び出されながらも、その呼び出しを無視し、【主】の導きを受けながらも、自分のやりたいことを優先することはないでしょうか。私が子供のころは、まさにそんな感じでした。

牧師の子供として生まれ、教会で神様のことを小さいころから知っていたにも関わらず、私は、朝の教会学校が終わったら、教会から脱走し、礼拝に出ずに友達の家遊びにいたりしていました。神様を礼拝することより、自分の楽しみを優先していたのです。本来ならば愛想をつかさされても不思議ではありません。

でも、聖書を見ると神様は、私やイスラエルのような【主】を裏切る者たちのために、救い主を呼び出すといわれています。14節から16節を読んでみましょう。

48:14 みな集まって聞け。彼らのうち、だれがこれらのことを告げたのか。【主】に愛される者が、主の喜ばれることをバビロンに行く。主の御腕はカルデア人に向かう。

イスラエルの歴史に当てはめるのならば、「【主】に愛される者が、主の喜ばれることを・・・行う」というのは、イスラエルをバビロンから解放するキュロス王のことです。でも、この預言を私達に当てはめるのならば、私達の救い主、【主】イエス・キリストのことになります。なぜならば、イエス様がバプテスマのヨハネから洗礼をお受けになったとき、神様はイエス様に向かって「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と言われたからです。

ここに「主の喜ばれることを・・・行う」とありますが、キュロス王が行った「主に喜ばれること」は为什么呢？ そう、イスラエルをバビロンから解放し、エルサレムに戻すことでした。

では、イエス様がなさった「主に喜ばれること」は、为什么呢？ 大バビロンであるサタンの支配を打ち砕き、私達を神の国に導くことです。

だから、神様は私達のために救い主を呼び出してくださったのです。15節

48:15 わたしが、このわたしが語り、彼を呼んだのだ。わたしは彼を来させ、彼の行くことを成功させる。

と書いてあるとおりですね。神様が呼び出した救い主の業は必ず成功します。だから、私達は、【主】に近づいて【主】の声を聞くこと大切なのです。【主】は言われます。

48:16a わたしに近づいて、これを聞け。

みなさん、みなさんはどれほど【主】に近づくということをしておられるでしょうか。そして、【主】の声を聞くことにどれほど力や時間を割いておられるでしょうか。

仕事があまりにも忙しくて聖書を開く時間がない、体調が悪くて聖書を開けない。単純に聖書を開く気になれない。そういう人もいますでしょう。それでも【主】に近づいて、【主】の声を聞くことこそが、私達、【主】に呼び出された者のなすべきことなのです。

神様は、私達をいつ、どのように救い出し、どのように導くのかを最初から計画され、そのご計画を隠さず教えてくださっているお方です。だからこそ、【主】が私達、呼び出した者に最初に求めておられることは、【主】に近づき、【主】の御声を聞くことなのです。

2) 【主】の声に耳を傾けると与えられる恵み

【主】に近づき、【主】の声を聞くということは、私達の自由をしぼる枷ではありません。寧ろ、私達に平和と正義を絶えず与えてくださる恵みです。

だから、神様は17節～19節のように言われています。

48:17 イスラエルの聖なる方、あなたを贖う【主】はこう言われる。「わたしはあなたの神、【主】である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。

48:18 あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のように、正義は海の波のようになったであろうに。

48:19 あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は真砂のようになったであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもなかったであろうに。」

17 節で【主】は「わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。」と宣言しておられます。神様は、私達を苦しめるためのことばではなく、益となる教えを与え、どのように生きたらよいかを教えてくださいます。

例えば、マザー・テレサはヨハネの福音書 13 章 34 節の「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。」というみことばによって、インドのカルカッタの貧しい人々のために生涯を捧げる決意をしました。

また、黒人差別に立ち向かったキング牧師は、マタイの福音書 26 章 52 節の「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」という、みことばによって暴力を使わない方法で黒人差別をなくそうとしました。

ウィリアム・ウィルバーフォースはミカ書 6 章 8 節の「ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」というみことばによってイギリスの奴隷制度廃止運動を進めました。

このような人たちが得た益は、お金をいっぱい儲けることができるとか、気持ちのいいことができるといったこの世的な幸せとは違います。でも、彼らは【主】のみことばをよく聞き、そのみことばに従ったからこそ、意味のある人生、充実した人生を送ったのです。そして、当然、彼らの歩みは霊的な滅びとは遠いものでした。

彼らは 18 節でいわれているように、永遠に流れる川の流れや、絶えず押し寄せる海の波のように、【主】から平和と義を与えられ続け、それを糧にしてその使命を全うし続けたのです。そうでなければ貧しい人、死にゆく人と共に歩み続けたり、暴力無しで平和的に差別と戦い続けたり、攻撃する人たちに対して公正と誠実さによって向き合ったりすることなどできないのではないのでしょうか。

【主】はいわれます。

48:18 あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のよう

に、正義は海の波のようになったであろうに。

【主】のみことばは確かに私達に、平和と義を与え続けてくださるのです。

3) 呼び出しの内容

そして、最後、【主】は御声を聞く者の恵みを教えた後、改めてイスラエルに対して【主】の呼び出しに応答するように求めています。20 節

48:20 バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「【主】が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。

「バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。」というのは、【主】がイスラエルのために呼び出してくださった救い主に従って、バビロンから脱出せよ。という命令です。

私達に当てはめるのならば、キリストに従ってサタンの支配、罪の誘惑から逃れなさい。ということでしょう。【主】が求めておられるのは、【主】が立ててくださった救い主の導きに従うことです。

しかし、それでも【主】がせっかく、救い主を立て、脱出の道を用意されているのにその道に従わない人がいます。出エジプトを思い出してください。【主】の導きによってモーセという指導者を得てエジプトを脱出したイスラエルは、出エジプトをした後、どうしたのでしょうか。食べ物がない。水がないといってエジプトに戻りたいと言いだしました。しかし、そんなイスラエルのために【主】はなにをなされたのでしょうか。21 節

48:21 主が荒れ果てた地を通らされたときも、彼らは渴くことがなかった。主は彼らのために岩から水を流れ出させ、岩を裂いて水をほとぼしり出させられた。

【主】はイスラエルのためにマナを与え、うずらを与え、そして、水を与えて彼らが飢え渴くことのないようにちゃんと養われたのです。

私達は【主】に従うことで、一時的に不便を感じることもあるかもしれませんが、しかし、【主】はちゃんと必要を満たし養ってくださるのです。

だから、【主】に呼び出された私達に求められている応答は、救い主イエスキリ

ストのみことばに従い続けることであり、その道を歩み続けることなのです。

では、その【主】の道を歩むことを拒否したらどうなるでしょうか。【主】はそのような人の末路も明確にしておられます。22 節

48:22 「悪しき者には平安がない。」【主】はそう言われる。

ここでいう「悪しき者」とは、バビロンのことではありません。

【主】の呼び出しに応えず、【主】に近づかず、【主】の声に耳を傾けようとしな
い不従順な人たちのことです。【主】からの呼び出しを受けていながらも、【主】を
無視するところに本当の平安はありません。

私も、東京への就職が決まり、親元を離れた頃。いままでずっと続けていた教会に
通う生活をやめて、日曜日に好きなことだけをやっていた時期がありました。
犯罪になるようなことはしませんでした。世の中の人を楽しんでいること
をそれなりにやってみました。でも、そこには本当の平安はありませんでした。そ
れをやっている時は、確かに楽しいのですが、でも、本当の意味で心を満たすところ
がなく、寧ろ、空しい思いが強くなったのです。

それは旧約聖書の伝道者の書を読んでもわかることです。伝道者はこの世のあらゆる
事業に成功をし、女性との楽しみも楽しみ尽くし、裕福でなんの不自由もない人
生を歩んでいました。それでも、彼はいうのです。「空しい」「空しい」と。そして、
彼は結論としてこのように言います。

12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令
を守れ。これが人間にとってすべてである。

まとめ)

みなさん、本当の平和や、本当の正義は【主】のところにあります。だからこ
そ、【主】は私達を呼び出してくださり、【主】に逆らう私達のために救い主を与え
てくださり、御言葉を通して、私達に語りかけてくださっているのです。

48:20 バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、
聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「【主】が、そのしもべヤコブを贖われ

た」と言え。

バビロンがイスラエルを支配し、閉じ込めたように、この世の罪や誘惑はなんとかして、私達をサタンの支配の中に閉じ込めようとしています。しかし、私達を呼び出し、救い主をお与えになった【主】なる神様は、「そのサタンの支配からでよ。罪の誘惑から逃れよ。」と私達に語りかけてくださっているのです。

そして、そのためにご自分の愛するひとり子であるイエスキリストを送りだしてくださいました。だからこそ、そのキリストに頼り、サタンの支配、罪の誘惑から出ていきましょう。

【主】は、みなさんに本当の平和と正義を与えてくださいます。